



喜ぶときは一緒に喜び、悲しいときは一緒に悲しむこと
河光希 私が入学した当時は、全校生徒が30人も満たないほんとに小さな学校でした。中等部1年・2年であつた私が、高等部2年・3年の先輩たちと、なんの違和感もなく一緒にあの小さな運動場で運動をしたり、

喜ぶときは一緒に喜び、悲しいときは一緒に悲しむこと
河光希 私が入学した当時は、全校生徒が30人も満たないほんとに小さな学校でした。中等部1年・2年であつた私が、高等部2年・3年の先輩たちと、なんの違和感もなく一緒にあの小さな運動場で運動をしたり、



印象深い出来事は?
南川瑞希 中等部1年生の時に韓国研修で姉妹校の国科人学校へ行きました。研修前に韓国語弁論大会に出た経験があつたので、その内容を韓国語で話してと言われました。その声が小さかつたみたいで、クラス

黄勝雅 私は転校してきましたが、KISは前の学校とすごく雰囲気が違うし、友だち関係も家族みたいにとても仲がいいから。今ではこの空気に馴染み、大好きです。

沈相宇 カナダ研修が一番楽しかった。最高でした。KISでは、いろんな国内外の研修に行きます。東アジアが多いですが、もっとヨーロッパとかアメリカにも行ってどんどん視野を広げてほしい。

黄勝雅 私は韓国系の民族学校からの転校だったので、私の考え方もめっちゃ韓国寄りでした。例えば、「独島（竹島）」問題でも、はじめから韓国の領土だと強く思っていました。でもKISの学びのなかで、なぜ私は韓国の領土だと言い切れるのだろう、なぜ、そのように考えるのか、について根本的に考えたり調べたりするようになりました。言い切るのではなくて、なぜそうなのかという疑問を持つて、一度考え直して、勉強してみると、一度考え直して、KISに来て非常に多くなりました。

沈相宇 KISの一番凄いと思ったことは、KISって「自分」を持ついる生徒が多いことです。自分の意見をはつきりと言える生徒が多い。僕は普段から自分が言いたいことを口に出さないタイプで、自分のことをさらけ出すことがなかなかできない。でもKISの生徒は自分を表に

ご飯を食べに行つたりしたのを鮮明に覚えています。全体が喜ぶときは一緒に喜び、悲しいときは一緒に悲しむことのできる学校、ひとつの中 IS共同体として過ごしたことが印象深いです。

— KIS学校生活で印象深い出来事は?
南川瑞希 中等部1年生の時に韓国研修で姉妹校の国科人学校へ行きました。研修前に韓国語弁論大会に出た経験があつたので、その内容を韓国語で話してと言われました。その声が小さかつたみたいで、クラス

の男子に声が小さい小さいと言われて、物凄く腹がたつたのをきっかけに、その時から韓国語を頑張ろうと思つたことが印象深いですかね。

それに冬休み前の音楽会がめっちゃ楽しかったです。保護者の作つて下さる手料理を食べて、みんなでいろいろな話をしながら、たわいなない時間を過ごすのもすごく楽しかつた。

黄勝雅 私は転校してきましたが、KISは前の学校とすごく雰囲気が違うし、友だち関係も家族みたいにとても仲がいいから。今ではこの空気に馴染み、大好きです。

沈相宇 カナダ研修が一番楽しかった。最高でした。KISでは、いろんな国内外の研修に行きます。東アジアが多いですが、もっとヨーロッパとかアメリカにも行ってどんどん視野を広げてほしい。

黄勝雅 私は韓国系の民族学校からの転校だったので、私の考え方もめっちゃ韓国寄りでした。例えば、「独島（竹島）」問題でも、はじめから韓国の領土だと強く思っていました。でもKISの学びのなかで、なぜ私は韓国の領土だと言い切れるのだろう、なぜ、そのように考えるのか、について根本的に考えたり調べたりするようになりました。言い切るのではなくて、なぜそうなのかという疑問を持つて、一度考え直して、勉強してみると、一度考え直して、KISに来て非常に多くなりました。

沈相宇 KISの一番凄いと思ったことは、KISって「自分」を持ついる生徒が多いことです。自分の意見をはつきりと言える生徒が多い。僕は普段から自分が言いたいことを口に出さないタイプで、自分のことをさらけ出すことがなかなかできない。でもKISの生徒は自分を表に

学んだ! 悩んだ! 成長した!



南川 瑞希

大阪府立大学
地域保健学域
看護学類

沈相宇

ソウル大学
社会科学系

黄勝雅

梨花女子大学
国語国文学科

河光希

韓国航空大学
航空運航科

2014年度第5回コリア国際学園卒業式が2015年2月14日に開催されました。卒業生11名が、それぞれの新たなステージに向けて旅立ちました。KISで学んだこと、後輩たちに伝えたいことなどについて卒業生4名に素直に聞いてみた。



**物事をポジティブに考えることで
自分に自信を持つことが
大事です。(黄)**

河光春 大学では日本や韓国たいでなく、いろんなところへ行き、感じ、新しい仲間を作つていただき。将来必ず、パイロットという夢を叶え世界を飛び回り、多くの経験をした後、母校であるKISに戻つてきて学生たちにその経験を伝えることができれば幸せです。

— 最後に後輩に伝えたいことは？

南川瑞希 KISには、もちろん足りない部分もあるけれど、いまの後輩たちは自分で出来るようなことも全部学校のせいにしているように思うときもあります。自分がやりたいことは、自分からどんどんやっていくべきです。

最後二後畫二云記上二二二四



沈相宇 何事も自分から行動を起こしてください。社会に出れば誰も自分のことを待つてくれないので。後輩だかららって先輩を「待つ」必要はなさいと思いますね。「先輩、何をしたらいいですか」「先輩ー僕は、これをしたいです！」これどうですか？」と自分からアクションを起こせる後輩になつてもらいたい。

物事をポジティブに考えること、自分に自信を持つことが大事です。あと自分のことを好きでいてあげること。若いうちにどんどん挑戦して失敗して、恥ずかしい自分も受け入れてあげてほしい。

だから後輩たちには、自分の人生はいくらでも切り拓くことができるのだから、相手の視線なんか気にせず、自分で判断して、ポジティブに考え、自分に自信をもつてもら

生活つて自分の考え方次第で、どんなふうにも楽しく感じる。面倒くさいことも多いし、しんどいこともあるけれど、それも全部ひつくるめて、自分の人生が楽しいんで

K-I-Sの学生は、誰もが東アジアの架け橋になれる。(沈)

く実行して必ずかなえたいと思います。

吸収して学びたいと思つています。どの分野に関しても知らないと力にならないし、知識がないと説得力ある意見も話せないし。もちろん、世の中に正解なんてないですが、答えは作つていけるものだし、探しにいくものだと私は考えるから。自分で答えを持つておきたいな。あと自分の専攻している韓国文学ではトップになり、首席で卒業する気持ちで頑張りたい。夢を見るだけはな

このような考え方には気づけなかつたし、国際問題などへの関心すらも持てなかつたと思います。

— 今後の抱負は？

黄勝雅 私の考えていることは、いつも未来のことしかなくて、やりたいことだらけなんですよ！ 大学では、政治も芸術も音楽も語学も嫌な数学も！（笑）自分が嫌なこともすべて挑戦したい。人間関係ももちろん大事だけれど、いまになつて学びたい気持ちが強くなつたので、20代はこりあえず、ハノヤラこよしでも



出していいから、そこが凄いなと感じました。僕も自分をちゃんと見せないと、アピールしないといけないなど感じました。

南川瑞希 私は小学校まではずっと

私は小学校まではすこと

出して いるから、そこが 濃い なと 感じまし た。僕も 自分を ちゃんと 見せ ないと、アピール しない といけない なと 感じまし た。

河光希 英語や韓国語はもちろんで、ごく、私の考え方の、ちょっと、ちょっと、でも、アイデントイティを考えたりする姿を見ました。「在日」が抱えるさまざまな問題もたくさん学べたので、とても考えることの多かつた学校生活でした。

日本人だと思つていまつたが、ルーツは韓國にあり、家の中にも韓國の文化がありました。小学生の自分には良く理解できずに、自分は友だちは少し違うということだけは感じていました。K-I-Sに入つて、それがそのままの自分なんだなと受け入れることができました。自分とは何かということをよく考へえることができたことになります。

沈相宇 僕は、それまで歐米系のインター・ナショナルスクールに通つていました。K-I-Sにきて、「在日」という言葉をはじめて知り、K-I-Sの

今後の抱負は?

沈相宇 僕の夢は、韓国のために働く外交官になることで、アジアの関係を改善できるような人になりたいと考えています。いま東アジアの関係は悪いですが、国家公務員になつて、外交問題を改善できるような人間になりたい。K－Sの学生は誰もが東アジアの架け橋になれるでしょう。K－Sの学生は一緒に勉強してきた仲間なので、それぞれの場所で、みんな架け橋の役割になれる僕は思います。

南川瑞希 大学の看護学科は大変だと周りの人にもすごく言われたりしますが、交換留学で海外に行きました



第2回「3言語スピーチ大会」を開催

(関西学院千里国際と共催)

大阪中華学校も初参加

コリア国際学園（KIS）は、昨年11月15日、関西学院千里国際中等部・高等部（略称・SIS）と共に、第2回「3言語スピーチ大会」を実施しました。SISを会場にして行なわれた今回のスピーチ大会には大阪中華学校がゲストとして加わり、コリア語・英語・日本語・中国語の4つの言語でスピーチを聞くことができました。英語のスピーチ大会は、全国各地で開催されていますが、3言語のスピーチ大会は、この大会だけではないでしょうか。

私たちKISでは、21世紀グローバル化時代において、世界の平和と繁栄、とりわけアジアの平和と繁栄に貢献できる有為な次世代を育てるためには、①母語と、②国際語としての英語、そして、③アジア隣国の隣語の3言語の習得が今後求められます。ヨーロッパ各国では早くから英語のほかに、隣の国の言語習得を勧め、相互理解を高めてきました。そのことが戦後ヨーロッパの平和保障とヨーロッパ連合（EU）結成にもつながりました。今日、ヨーロッパの教養人が3~4カ国語を自由に駆使する姿は決して珍しくありません。3言語を当たり前のよう駆使しながら国際的に活躍する人が日本中に現ることを期待しています。

KIS生徒たちも活躍



故でなくなった「生命」を対比させながら、「共存」の大切さを英語、コリア語、日本語で見事に訴えた内容でした。他のKIS出場者も優秀賞や奨励賞を受賞するなど活躍しました。また、テコンドー部の生徒たちも応援にかけつけ、素晴らしい演武のステージも披露して大会を盛り上げました。

KISからの出場者とテーマ

<中等部（2言語選択）>

学年	名前	テーマ	使用言語
中等部1年	許文華	「私のヒーローは飛ばない」	日本語・コリア語
中等部2年	西本実杏	「目指せ、ゴルフ界のティンカーベル」	日本語・英語
中等部3年	韓侑奈	「スーパーマンとワンダーウーマン」	日本語・コリア語

<高等部（3言語選択）>

学年	名前	テーマ	使用言語
高等部2年	姜尚潤	「私の生命が尽きるその日まで」	日本語・コリア語・中国語
高等部2年	木下グレイス	「生命と共存の縁」	日本語・コリア語・英語
高等部2年	金英秀	「命=生命=Life?」	日本語・コリア語・英語



生命と共存の縁

コリア国際学園高等部2年 木下グレイス

この地球には、たくさんの生命体が共存している。共存するということは、お互い異なる二つ以上のものがともに存在するということである。私たち人間は、これまで共存してきたのに、最近になってなぜインターネットやテレビなどで共存という言葉が何度も耳に飛び込んでくるのだろうか。それは、ともに存在することが私たちに当たり前になりすぎ、忘れて生きてしまうことを恐れたためではなかっただろうか。だから、いま私たちが最も大切にすべき言葉は共存であると思う。

それなら、私たちにとって一番身近な共存の単位は何だろうか？それは、家族であろう。

約2ヶ月前、私の従兄弟のシヨンが、家族をはじめとするたくさんの人々に祝福されて生まれた。私は休みのたびに韓国に遊びに行ったりするが、そのたび、お腹の中にいるシヨンの成長過程を見てきた。当時、叔母は臨月であったが、それにもかかわらず、重いお腹を抱えて、その胎児のためにご飯をちゃんと食べ、胎教に良い歌を聞かせていた。また、胎児に少しでも寂しい思いをさせまいと、常にお腹をさすっていた。それほどまでにお腹の子どもを大事にしようとする過程を見守ってきた私にも、まだ実感することのできない一つの生命体を大切にする心が沁みてきた。

我まだ会ったことはないが、生まれたときの話を聞いたり、写真を見たりするだけで、思わず笑みがこぼれる。その写真の中には、10ヶ月という長い時間をへて誕生した希望の賜物であるシヨンを心から愛しげに見つめる叔母の姿が一緒に写っていた。シヨンが誕生したこと、私たちは喜びを与えられ、幸せをもう一度心に刻むことができた。はじめて家族は生命の誕生をともに喜び、私たちが家族という一つの共同体、すなわち、共に生きていることを実感したのである。それは一筋の光のように決定的なものであった。

一方、人の生命がこの世から消え去ることも、その共同体の共存意識を省みる一つの契機になる。4ヶ月前に韓国で起きた「セウォル号」事故を思い返してみると、まだ胸がひどく傷む。自分の家族でなくとも、同じ年の韓国の学生たちが、未だその中で沈んでいると考えると、またその家族の胸の思いを考えると、私たちはみんな一緒に生きていることを、同時に彼らと一緒に生きていたことを思い知らされる。そして、忘れないで胸にしっかりと刻んでおこうと思った。

これからも生命の誕生を心から嬉しく思う日も、生命が消え去ることにひどく悲しむ日もあるだろう。私はすべてを包み込む共存という意識を持ちながら、嬉しく思い、悲しむことのできる温かい人になりたい。私の身体に流れる36.5度の血液のように、である。



後期教養・LA科授業、「知識の論理」の公開授業開催

IBの正式導入を見越して現在の中等部2、3年生を対象にした選択授業として行なわれているものです。授業は輪になつて、担当の池田先生と生徒たちとの対話型の授業です。前回と今回の2回の授業は、公開授業として保護者の方々も熱心に参加していました。前回までの復習として、演繹法と帰納法や三段論法などについて、さまざまな事例を引き合いにしながら討論・対話しながら授業が進められます。この日は「シュレーディンガーの猫」を題材



2014年度後期の教養・L.A科授業は、コリア民族楽器、リーダーシップ論、人権論、サービス＆プロジェクト入門などのコースを開講しています。リーダーシップ論は、立命館大学共通教育推進機構の山口洋典准教授をはじめ三人の先生が、人権論は大阪芸術大学の北口学先生が担当されています。

にしながら、討論が進められていました。テンポの良い池田先生の問いに、自分の考えを積極的に話したり、時には考え方込んだり。時おりリラックスした笑い声も聞かれますが、自分の考えをまとめていく際に、全体がひとつに集中して授業に参加している姿がとても印象的でした。

哲学カフェ～「『ゆるす』ってどういうこと？」を開催

「時間は、視野を広げてくれて、感情を落ち着かってくれる」「『ゆるす』ことが大事である一方で、未来のためにゆるしてはならないこともあります」「ゆるせるのこととゆるせないことの違いは、その背景に、あたたかいものがあるかどうか」。

「お母さんとの喧嘩でもやもやとしていたから参加した」と話していく学生は、哲学カフェを終えて帰るときには、すっかりほぐれた表情



年齢、所属などさまざまな境界を越えたトークサロンであるKIS恒例の哲学カフェ。2014年度第4回目のテーマは、「『ゆるす』ってどういうこと? ゆるすることは幸せになるための处方箋?」。7月7日(月)の放課後に開催され、教室には、KIS学生や教員に加えて大阪大学

に変わり、「なんか、もうゆるせそ
うな気がする」と一言。場や空間、
対話の持つ力を改めて感じるひと時
でした。哲学カフェの唯一のルール
は、「自由であること」。ふらっと立
ち寄るも、途中抜けも、話すも話さ
ないも、とにかく自由な時間と空間
です。是非、お気軽にご参加を。

KIS、国際バカロレア(IB)「日本語DP」候補校に

I Bには学齢に応じて P Y P (初等教育プログラム)、M Y P (中等教育プログラム)、D P (ディプロマプログラム)の3つのプログラムがありますが、K I Sが導入するのは、高等部2年次と3年次の2年間にわたるD Pです。D P課程を修了し、世界の統一試験に合格するとI B資格が与えられ、そのスコアによって全世界の約2千の大学の入学者選抜でも考慮の対象となります。D Pは国際的に認められている大学入学資格のひとつでもあります。

文部科学省は今年1月、大学入試センター試験について、知識量を測るテストから思考力や判断力を評価する「学力評価テスト」に改め、高校生の就職活動やA O・推薦入試にも使える「高校基礎学力テスト」も2019年度からの実施を目指しています。また文科省は、こうした大学入試改革と連動する形で、2018年までに全国でI B認定校を200校に増大させる野心的な目標を掲げています。

I Bには学齢に応じて P Y P (初等教育プログラム)、M Y P (中等教育プログラム)、D P (ディプロマプログラム)の3つのプログラムがありますが、K I Sが導入するのは、高等部2年次と3年次の2年間にわたるD Pです。D P課程を修了し、世界の統一試験に合格するとI B資格が与えられ、そのスコアによって全世界の約2千の大学の入学者選抜でも考慮の対象となります。D Pは国際的に認められている大学入学資格のひとつでもあります。

文部科学省は今年1月、大学入試センター試験について、知識量を測るテストから思考力や判断力を評価する「学力評価テスト」に改め、高校生の就職活動やA O・推薦入試にも使える「高校基礎学力テスト」も2019年度からの実施を目指しています。また文科省は、こうした大学入試改革と連動する形で、2018年までに全国でI B認定校を200校に増大させる野心的な目標を掲げています。



IB校への視察などをへたあと、昨年10月に正式にIBOに申請書を提出しました。今年に入り、1月にはIBOから連絡を受け、「IB「日本語DP」候補校になつた旨の報告を受けました。今後、IBOが実施する研修会への参加や視察を受け、早ければ2017年度の高等部2年生からKISでのIB教育が始まります。

2014年度第5回卒業式を挙行

ひとりに卒業証書を手にする卒業生の表情は、緊張感のなかにも喜びと自信に溢れたものでした。その後、大阪府議会の森みどり議員から来賓を代表しての心温まる挨拶をいただきました。学生会長の高等部2年の呉翔宇君が送辞を送り、邊廣烈君が卒業生答辭を行ないました。

2部は、いよいよ学生会主体のK.I.S恒例の卒業パーティーです。学年ごとに卒業生への創意工夫したメッセージや歌が発表されました。寄宿舎の寮生が卒業する先輩の思い出を話すときに思わず涙を流す場面もありました。続いて卒業生から学生生活の思い出をビデオ上映と在校生や両親、教員にあてた手紙の朗読がありました。

卒業生たちの脳裏にはさまざまなもので、思い出が溢れ、涙しながら手紙を読む姿が印象的でした。卒業生の朴苑善さんは家族や後輩にあてた手紙でのなかで「私が、これまで頑張れたのは何よりもお母さんの励ましと応援が一番効かなかった」と。土事



スに本部を置く国際バカロアーラ機構（I B O）が提供する世界共通の教育プログラムです。全人教育を通じて、主体性を持ち、バランス感覚に優れた、国際社会に貢献する次世代

IB校への視察などをへたあと、昨年10月に正式にIBOに申請書を提出しました。今年に入り、1月にはIBOから連絡を受け、IB「日本語D.P.」候補校になつた旨の報告を

2015年2月14日(土)に茨木市立豊川小学校の講堂で行なわれ、卒業生11名をはじめ保護者や関係者など約150名が参席しました。一部の卒業証書授与式では、厳肅な雰囲

「私の理解者であつたお母さん。大事に育ててくれて本当にありがとうございました。」と語りました。